

大人も満喫、 歴史と文化の里山暮らし

益子は、大人にとっても楽しみながら学び続け、暮らしを充実させていくことができる町です。町の企画でも、住民の自主的な活動でも、趣味やレクリエーションにとどまらず、教養を深めることや地域づくりの活動に繋がるものなど、さまざまな講座やイベントなどが開かれています。

町が主催する

歴史講座

歴史的建造物や古墳が多く残る益子では、専門家を招いての座学やフィールドワークを行う歴史講座や文化財探検隊シリーズなどが開催されています。

歴史分野の講座はとても人気があり、テーマによっては、すぐに定員に達してしまいます。町の歴史について学び、観光客へのボランティアガイドとして活動される方も。問|生涯学習課 文化係 ☎ 0285-72-3101



町が主催する

ましこいきいき講座

住民の希望に応じて出張講義を行う講座が開設されています。町民が特技や専門分野を生かして担当する「町民編」で67講座、行政職員が担当する「行政編」で82講座のプログラムが用意されています。問|生涯学習課 生涯学習係 ☎ 0285-72-3101

町の施設で住民が企画・運営する

自主教室

専門的な知識や技術を生かして自ら講座を開講したり、関心のある分野で気軽に参加することができます。音楽、語学、工芸などさまざまなジャンルで50以上の講座が開講されています。問|生涯学習課 生涯学習係 ☎ 0285-72-3101

住民が民間の店舗などで企画・運営する

ワークショップやイベントなど

陶芸だけではなく、木工や服飾などの手仕事作家が講師を務めるワークショップや勉強会、カフェで開催される音楽ライブ、公共施設を利用して自主企画される映画上映会や講演会などが活発に開催されています。

陶芸や服飾などの生業をもつお母さんたちが共同で運営する「つづり商店」では、写真のような、ほつれた衣服を持ち寄り針を動かす「繕い会」や「金繕ぎ教室」などが開かれています。



🏃 スポーツ教室

世界の舞台で活躍している選手やコーチを指導者に迎え、小中学生が夢を持ちながら技術やスポーツマンシップを学んでいけるよう8つの種目で開催しています。

開催スポーツ|野球、剣道、柔道、サッカー、卓球、ソフトテニス、バドミントン、バレーボール
問|生涯学習課 スポーツ振興係 ☎ 0285-70-2727



🏆 交流体験の翼 北海道雄武町での体験活動

民間レベルで交流を続けている雄武町。オホーツク海に面した酪農と漁業の町で、夏休みに3泊4日を過ごします。

対象|小学4年生・5年生 15名
時期|7月下旬の3泊4日
訪問・滞在先|北海道(雄武町とその周辺市町)
問|生涯学習課 生涯学習係 ☎ 0285-72-3101



🏆 英語教育の充実

陶芸家・濱田庄司が活躍した時代から世界に開かれた町として、小中学校では英語教育と英語による活動に力を入れています。

小学校|4校すべてに、ALT(英語教員)を配置し、1年次から発達段階に応じて英語の授業を行っています。
中学校|次に紹介する派遣事業の他、町立中学校に通う生徒を対象に「英検」の検定料を補助する支援制度もあります。
問|学校教育課 学校教育係 ☎ 0285-72-8862



🏆 中学生海外派遣事業

イギリスのコーンウォール地方にあるセント・アイヴスは、濱田庄司が英国人陶芸家とともに窯を築いて活動していた海辺の町。現地中学生との交流を深めています。

対象|町内の中学校に通う中学2年生12名
派遣期間|毎年11月に8泊9日前後。
個人負担|100,000円
問|学校教育課 庶務管理係 ☎ 0285-72-8862



益子で子育て のびのび広がる可能性！ 支援や環境づくりの取組を紹介

子どもたちの豊かな体験の環境をつくります

🏃 育脳プログラム

子どもたちの健やかな成長をサポートするため、子どもの脳の成長過程に着目したプログラムを作成し、講演会や講座などを開催しています。

問|健康福祉課 保健予防係 ☎ 0285-70-1121

🏃 子ども子育て支援拠点施設 「ましこっこハウス」

就学前の親子を中心に、大人も子どもも気軽に集い、情報交換や子育て相談ができる拠点施設を2018年7月にオープンしました。

場所|益子2095番地1
定休日|火曜・祝日・年末年始
開所時間|9:30~17:00
問|ましこっこハウス ☎ 0285-85-8190



🏃 ましこいきいきトライやるスクール

学校と家庭での体験にプラス！自然体験や創作活動、英会話での活動など、幅広い体験ができる講座を開いています。

対象|小学4年生~6年生、30名程度
内容|年8回程度のプログラムを組んで参加者を募っています。これまでの実施例として「マス釣り」「虫とり教室」「スノーシューで雪の森を体験しよう」「イングリッシュセミナー」「雨巻山登山」など。
問|生涯学習課 生涯学習係 ☎ 0285-72-3101



子育て世代を支援します

🏡 ウェルカムベビー手当

出産までの経済的な支援を行っています。

支給額|胎児1人につき3万円を支給
対象|妊娠22週を過ぎ、申請から認定まで町内に住民票があり、町税などを完納された方
問|健康福祉課 保健予防係 ☎ 0285-70-1121

🏡 チャイルドシート等 購入費補助金

6歳未満の子どもが使うチャイルドシートなどの購入費の一部を補助します。

支給額|上限1万円(費用の1/2相当額以内)
対象|6歳未満のお子さんがある方
問|健康福祉課 児童家庭係 ☎ 0285-72-8865

🏡 子育て応援手当

年に1回、町内のお店で使える地域通貨「ましこスマイル通貨」を子育て中の家庭に支給します。

支給額|子ども一人あたりに1万円分、ただし小学校入学準備金は3万円、中学校入学準備金は5万円
対象|18歳以下の子どもを持つ世帯
問|健康福祉課 児童家庭係 ☎ 0285-72-8865

🏡 こども医療費助成制度

栃木県内のお医者さんにかかった場合、保険診療が適用された医療費の自己負担額を町が助成します。医療機関での支払いは必要ありません。

対象|0歳~中学3年生
問|健康福祉課 保健予防係 ☎ 0285-70-1121

🏡 Nobody's Perfect プログラム

移民の国カナダで始まった子育て中の親を支援するプログラム。参加者が子育てで体験を持ち寄り学び合います。

対象|0歳から5歳の子どものもつ親
会場など|益子町保健センターで年2回実施
問|健康福祉課 保健予防係 ☎ 0285-70-1121

歴史に学び、自然の恵みを受け取って…
家族でつくる創造的里山生活

宇都宮市内の会社に勤務する保園薫さんは、宇都宮市内で暮らした後、実家の敷地内に家建ててリターン。同じ名前の奥様・かおるさん、ふたりの息子さんたちと、さまざまな家族プロジェクトを展開中です。



自宅の裏手にある、かつてリンゴを栽培していた畑。生活の中の仕事や、自由研究、それからベットのニホンヤモリの餌を捕まえる家族のフィールドです。



木々が伸びゆく年月と
家族の成長

中学2年の千晶くん、小学5年の郁実くんを中心に、里山生活を満喫している保園家。先祖代々、大切に守りながら良い関係を築いてきた里山が周囲に広がります。薫さんのお父様は、リンゴやカキ、ウメなど果樹を中心に専業農家を営まれてきました。里山の木の手入れも一本梯子を使って自ら枝打ち作業をするなど、先祖から受け継いだ土地に、とても丁寧な手を入れていらしたそうです。

そんなお父様の姿を見て育った保園さんは、いったん益子を離れたのち、7年前に宇都宮からリターン。今は宇都宮の勤務先に車で通勤されています。裏手の畑の北側にはクヌギ林が。かつてはリンゴ畑でしたが、お父様が家族でいただく分を残して伐採し、クヌギの苗木を植えました。林の隣には家族で干し芋にするサツマイモ畑、カリカリ梅や梅干しにするウメも。「木の成長とともに取り巻く環境そのものも変わっていくんですね。子どもたちも、そんなことをわかってきているようです」と、保園さん。クヌギ林には、この初夏からクワガタやカブトムシが大量発生し、郁実くんの自由研究のテーマとなりました(14ページの写真)。

子どもたちの可能性を
伸ばす、里山の環境

自由研究の取組も、単に宿題をこなすということではなく、里山の暮らしの中で誰かが関心をもったことを大切に、家族みんなが楽しみながら学びながら取り組んでいく。そんな普段の生活の延長上にあります。自分たちで「どきどき研究所」と呼んでいる家族プロジェクトは、進行中の主なもので6件(次ページ)。兄の千晶くんが「興味を持った時に、調べられる環境が残っていると嬉しいです」としっかりとコメント。千晶くんが小学校に上がる時に移り住んだ保園家ですが、「幼稚園の頃の千晶はカナヘビをさがいで飼って卵を産ませたりしていました。益子に来て、そんな興味関心が炸裂した！という感じですよ(笑)」と、かおるさん。一町では、さまざまな体験講座や、イギリスへの中学生派遣事業を行っていて(11ページ)、千晶くんも郁実くんも積極的に参加しています。子どもたちの体験がベースになる家族の会話、家族の活動。子どもの成長とともに一緒にできることも増えていく。創造的な里山生活の可能性が広がります。

in the grass



玄関からリビングに繋がる広い土間に薪ストーブが置かれています。益子では昔から風呂や台所での煮炊きだけでなく、陶芸の釉薬づくりにもクヌギなどを利用してきた歴史的な背景もあり、薪ストーブがある家庭も少なくありません。



保園ファミリーに敷地内を案内してもらっていると、突然それぞれに、草むらのをぞき込みながら手を伸ばし始めます。「あ、いたいた！」と。生きた昆虫を捕食するニホンヤモリ(写真下)のエサとしてクモや小さな虫たちが次々に虫かごの中へ。

暮らしをおすすめポイント
5

里山の暮らしを満喫できる!



御神木とも言える大きなモミノキがある林の入り口には、屋敷神の小さな石の祠があります。その脇を通る時、子どもたちも自然に一礼をしています。

plant trees



保園家の敷地に接する神社の参道は、育ち過ぎたスギやヒノキの古木で陽がささなくなっていました。倒れる危険性もある敷地の側の古木を伐採し、突生のシラカシや挿し木のアジサイを里山から移植する取組を家族で進めています。





歴史×自然×文化 創造的里山生活

地域の歴史、自然に学び、文化的な里山の創造的暮らしを親子でつくり続ける保園ファミリー。子どもたちの成長につれて、一緒に考えたり楽しんだりできることも、その可能性が広がります。



カンヒザクラ

八重桜の品種のひとつ。家族で花を塩漬けにします。高い脚立から一輪一輪手摘みして自然の恵みに感謝しながら。千晶くん曰く「炊きたての白いご飯にのせて食べると、とってもおいしいです!」



クヌギ

里山の雑木林の主役ともいえる、ブナ科コナラ属の落葉広葉樹。保園家では子どもたちも薪割りを手伝います。クヌギの大木はクサビを打ち込み、ハンマーで叩く。その作業は剣道の練習にもなるそうです。



カキ

保園家では、干し柿だけではなく、板壁の塗装や草木染めに使う柿渋づくりにもチャレンジ。町の中学生イギリス派遣交流事業に参加した千晶くんは、ステイ先へのお土産に、自家製柿渋で染めた手ぬぐいを持参。



すぐご近所の日月神社へ。薫さんが両親と歩いた道を、今は奥様と子どもたちと歩きます。



◆ 七研 (ななけん)

保園家が暮らす町北部の七井地区の地名の元になった「七つの泉/井戸」について歴史や環境などのアプローチで調べたり、サイクリングマップを作ったり…。

◆ 虫研 (むしけん)

郁実くんが中心になって進める樹液レストランの大調査。朝夕、どの木のどの高さに何匹いるか、何をしているか、移動するかなど、細かいデータを集めています。

◆ 辰研 (たつけん)

中世以降に京都/鎌倉から奥州へ向かう軍用道路として開かれたと言われる辰(立)街道。そのルートの痕跡を家族で、自転車旅をしながら探っています。

◆ 稲研 (いねけん)

#1 余った苗を何個ものバケツに植え、植え方を変えて収穫できる米の量を調べました。郁実くんが小学2年生の時の研究です。

#2 余った苗を苗箱のまま同じ高さで切りそろえ、どのように伸びるのか…、苗がおしゃべりしているのではと考えて調べました。千晶くんが小学3年生の時の研究です。

◆ 挿し木研

挿し木は葉を半分には切らないといけなくて本当かな?疑問に思った千晶くんは条件を変えたアジサイやハギの挿し木100本の調査研究を行っています。

◆ 植樹プロジェクト

前ページでも紹介したシラカシの植樹は、夏の水やりを家族で分担して乗り切ったそうです。水道から離れているのでバケツに何杯も水を汲んで運びました。

学校の自由研究として取り組んだものもあれば、関心があるテーマに自主的に取り組んだものや、まだ完結してなくて、数年計画のものも。記録のノートは、きっと一生の宝物に。



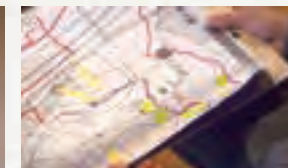
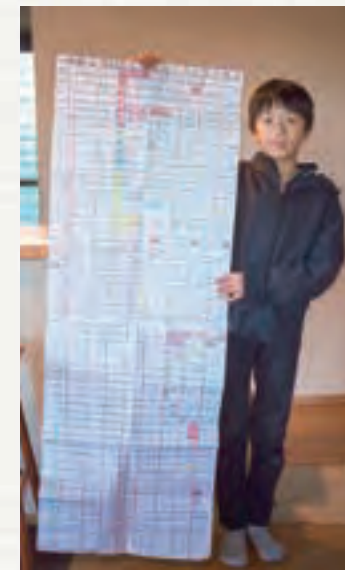
Hozone Family
SATOYAMA
NOTEBOOK



どきどき研究所 家族プロジェクト



これまでに、夏休みの自由研究で取り組んだテーマや、家族のプロジェクトとして行ってきた取組は、歴史、自然環境、生物など実に多彩。里山の環境ならではのテーマです。



左の写真は郁実くんが自由研究で取り組んだ、クヌギ林の樹液レストラン調査。カブトムシやクワガタの背中に番号をつけて50本のクヌギのどこに集まるか、朝夕調べていました。

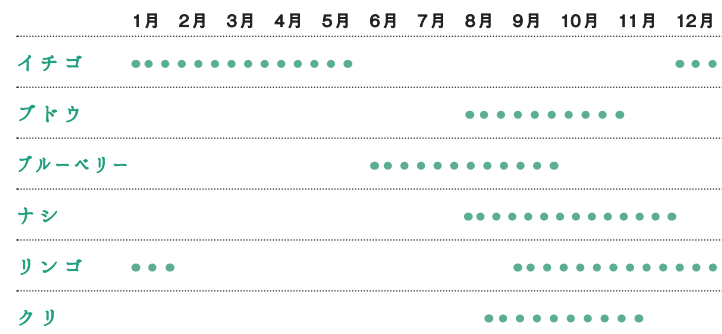
教員一人当たりの児童生徒数	
益子町	
小学校	15.0
中学校	11.6
● 県内A市 小学校 17.9 中学校 15.0	
● 都内B区 小学校 18.7 中学校 17.3	
【出典】文部科学省「平成29年学校基本調査」	

待機児童は	0
(2018年12月1日現在)	
5つの保育園	
田野地区: 田野保育園	
益子地区: 益子保育園・みどり保育園	
七井地区: 七井保育園・やわらぎ保育園	
2つの認定子ども園があります。	
益子地区・たから幼稚園	
七井地区・七井幼稚園	
小学校4校 中学校3校 県立高校1校	
特別支援学校1校	

子育てで真っ最中の三家族の暮らしの風景をお伝えしてきましたが、最後に益子の子育て環境を数字でお伝えします。就学前から中学校まで、一人ひとりをしっかりりとみてもらえる、そんな環境が益子にはあります。

共働き家庭も安心!
益子の子育て&教育環境

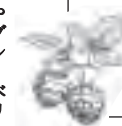
[益子で採れる主な果物の収穫時期]



*収穫の時期は、品種によって異なり、その年の天候などによって変化します。

保園さんのお実家でも、リンゴやブルーベリーを早くから生産されてきましたが、益子は果樹栽培も盛んな土地です。町内の観光果樹園などでは一年を通して果物狩りを楽しめ、観光客だけでなく、益子で暮らす私たちも週末のレジャーとして、里山の恵みをいただいています。

益子のくだもの
四季の食卓を彩る
里山の恵み



ご相談は、こちらへ

ましこのコンシェルジュ（移住サポートセンター）

コンシェルジュが、益子に移住を検討されている方をサポートします。
益子に立ち寄った際には、お気軽にご相談ください。

〒321-4225 益子町大字長堤2271番地（道の駅ましこ内）
営業時間 | 9:00～18:00 毎月第2火曜日定休日
Tel:0285-72-5530 Fax:0285-72-5531

益子町 企画課

移住定住に関する様々なこと、お気軽にご相談ください。

〒321-4293 益子町大字益子2030番地
平日 8:30～17:15
Tel:0285-72-8828 Fax:0285-72-7601

益子町移住定住ワンストップサイト 「ましこの暮らし」

(<http://www.town.mashiko.tochigi.jp/page/dir001806.html> 検索 | ましこの暮らし)

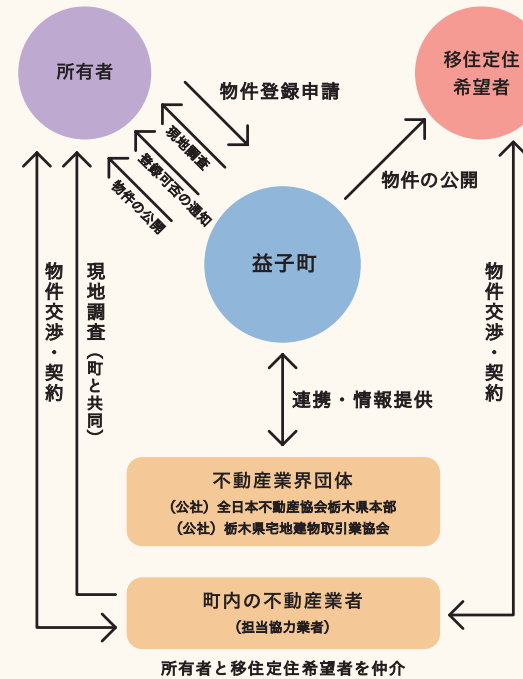
住宅・仕事・教育などの詳しい情報や、移住を考える人向けのイベント情報、
益子の土地に根をはり暮らす移住者へのインタビュー記事などを紹介しています。



空き家・空き地バンク

空き家、空き店舗、空き地の所有者から提供された情報をホームページで公開し、移住、都会との二地域居住、起業などを希望する方に幅広く情報を紹介するシステムです。契約も、不動産業者を介して行うので安心です。

事前の利用登録は必要ありません。空き家・空き地バンクに登録された物件の見学を希望される場合は、直接、担当不動産業者にご連絡ください。詳細はホームページをご覧ください。



可能性！
のびのび広がる
里山暮らしの
益子で家を持つ。



住まいに関する情報

空き家・空き地バンク協力事業者

不動産業社名	所在地	Tel
あおい住宅（合同）	益子 1006-1	0285-81-7602
小林商事（合同）	北中 915-1	090-7809-9363
（有）サクライハウス	益子 2824-2	0285-72-8368
（有）大見組	大沢 2576-3	0285-72-6822
（株）外池酒造店	塙 333-1	0285-72-0001
ハシノホーム（有）	塙 644-16	0285-70-2210
ふるさと情報センター	益子 1862-3	0285-81-3361

住宅に関する支援制度

移住定住促進 住まいづくり奨励金

町内に移住・定住するために住宅を取得した方に奨励金を支給します。
基礎額 | 新築 15万円 中古 7万円
加算額 | ①同居する子（18歳まで）1人につき：3万円
②転入世帯：2万円 ③町内事業者が施工または販売：2万円

住宅用木質バイオマス ストーブ設置費補助金

薪ストーブやペレットストーブを設置する方にその費用の一部を補助します。
補助額 | 設置に20万円以上を要した場合 1/10 以内（5万円上限）
要件 | ストーブ設置後1年以内に町内に住所を有することが確実であることなど

住宅用太陽光発電システム 設置費補助金

住宅用太陽光発電システムを設置する方にその費用の一部を補助します。
補助額 | [パネル] 1kwあたり1万円（4万円上限）
[蓄電池] 事業費の10%を補助（10万円上限）
要件 | パネルは売電開始後、蓄電池は設置後の申請



2019年2月発行

発行:益子町総務部企画課 地方創生担当

〒321-4293 栃木県芳賀郡益子町大字益子2030番地

TEL:0285-72-8828 FAX:0285-72-7601